

2017 年度活動報告

2017 年度関ゼミは「スーパーグローバルゼミ」と名を馳せ、7 カ国 13 名のゼミ生が学内外であらゆる活動に取り組み、一生忘れることのない唯一無二の経験をした。また広報課にも多く活動記事が掲載され、SNS を通じて国内外に発信された。

楽しいこと、面白いこと、辛いこと、きついこと、そしてまた楽しいこと。
それらを積み重ね、共に過ごした仲間たちとの友情は、何年経っても色あせないことだろう。

【年間スケジュール】



【ネパールでの活動内容】

まずは、現地の学生とアイスブレイク。自由気ままに自分が思うように体を動かし現地の学生とペアになってダンスを踊った。

初めは恥ずかしく、周りを気にしてしまう人たちがいたが、みんなが面白おかしいダンスを踊っているから次第に恥ずかしさもなくなり楽しさだけが残った。そして、日本人の学生・ネパール人の学生がそれぞれ歩み寄った瞬間であった。アイスブレイクの後は UN Women を訪れジェンダー平等について学び、ネパール学生と白熱したディスカッションを交わした。



※UN WOMEN とは、United Nations Entity for Gender Equality and Empowerment of Women（ジェンダー平等と女性のエンパワメントのための国連機関）の略称。



水・電気・インターネットが全くない3つの貧困村を数日かけて訪れた。貧困村で生活する人々の家にホームステイし、その人たちが食べるもの、生活スタイル（シャワーは3日に1回など）、言葉（ちょっとした単語）、文化（食事は手で食べるなど）、など私たちも村民と同じように時間を過ごした。

また、各貧困村では小学校を訪れ、日本やベトナム・フィリピン・中国など様々な国の伝統ダンスを一つにしたパフォーマンスを披露したり、小学生たちが勉強になるような授業を行ったり、パソコンの寄付や日本の文化である折り紙体験会を開催した。日本への帰国前には、モンキーテンプルという有名な観光地を訪れ、現地の学生との最後の思い出を作った。

【思い出】



現地の学生とたったの2週間という時間を過ごしたが、その時間が一生の友達をつくらせてくれたこと。

2週間のプログラムではアイスブレイク、勉強会、貧困層を訪れるなど様々なことがあったが、その中で一緒に過ごす何気ない一瞬が今では一番大切な思い出だと思う。冗談を言い合って笑いあったり、その時に起きた予想しないハプニングで一緒に驚いたり、美味しいものを共有したり、恋愛トークをしたり…楽しいことも、悩ましいことも今気づけば色々な時間を共有した。

その時間こそ、このネパールでの一生の思い出である。

【勉強になったこと】

ネパールにくらべて日本は、色々なチャンスがたくさんあること。

日本は就職活動のためにボランティアをしようと思えば様々なプログラムに参加できる環境があるし、お金を稼ぐためにアルバイトしようと思えばすぐに見つかるし、経験を積もうと、専門学校やインターンに行こうと思えばあらゆる中から選ぶことができる。対してネパールはなかなか自分が思い描くようにいかない。どんなにやる気があっても環境が関係して叶わない現地を抱える夢見る若者を目の当たりにした。そんな中、日本には自分次第であらゆるチャンスをものにできること、行動を起こさずそれを掴まないでいるのは勿体なさすぎることに気がついたのが一つ勉強になった。

【ネパールでの活動の発信方法】

1年間の活動の中で、イベントの開催数は実に6回。共催や参加したイベントを含めると全12回に上る。楽しみながら学びをアウトプットすることにフォーカスを置き、様々な方を招いて学内外での交流機会を多く作り上げた。

【1年間の活動で達成したこと】

- ・学内70人越えの集客を達成 (English Fair)
- ・進一層賞3連覇達成
- ・独自イベントを計6回開催
- ・英語プレゼンテーションコンテストで3賞の内2賞ゼミ生が受賞
- ・11月の報告会にて、外部の団体と協力し100名以上の来場者達成
- ・新 Mero Sathi バンド、デザイン考案
- ・大学ニュース掲載、計9回



【ページ作成者】



- ・加藤裕貴（経営学部）/ 総合エレクトロニクス商社 法人営業職
- ・吉野 ジュディー歩（経済学部）/ 人材紹介業、家事代行サービス業

柔軟性を持つこと。どんな状況が起きても、自分がその状況に合わせて同じように変化し、順応していくことが今の予想しないことが起きる仕事の中で生かされている。また自分らしくいることの必要性です。自分のコピー体など存在せず、周囲の人間はどこか自分とは違います。それをどれだけ受け入れ合う事が、色々な人と仲良くなるコツですが、同時に自らの特色を全面に出していくことも必要です。それは今の仕事でも、社内やお取引様に自らを売り込む際に生かされています。

<現ゼミ生へのメッセージ>

関ゼミは英語を学ぶことがメインではありません。英語を学んで初めて関ゼミ生として活躍できます。人とどううまく関係を構築していくのか、人間一人ひとりが持つ個々の文化や価値観を学びながらそれを受け入れる姿勢について、海外研修を通じてだけでなく一緒に頑張っていく仲間と協働していく中で学ぶことができます。関ゼミを通して経験し学んでいくことは今後の人生で役に立ち、人と関わっていく中で欠かせないスキルです。ぜひそれを自分のものしてください。最後まで楽しみながら、色々な景色、文化、環境に触れて新しいものを見つけてください。最後には大学を超え、国境を超えた一生の仲間に出会えます。関ゼミで活動をして後悔することはありません。（吉野ジュディー歩）



私は、経験する事の重要性を学びました。難しい事や簡単な事、辛そうな事や楽な事。経験しなくても周りが言っているからわかるというのは、まだわかっていません。人は経験した事しか語ることは出来ないため、多くのゼミ活動をゼミ生みんなで行い、非常に多くの経験をしました。社会人となり今でも業務上自分で考え進めてみようと思ったことは、まず取り組んでみます。そこで周りの経験豊富な方々にアドバイスをもらいながら、自分の目指す方向に走って過ごしています。失敗出来ないことや課題がない状態というのは、その状態があなたにとっての課題です。あなたの伸び代を最大限広げ、未知の世界に飛び込むことを楽しんで下さい。そして多くの人にアドバイスをもらって仲良くなって、成長して行って下さい。他者との関わり方は、上記に歩が伝えています。ぜひ、最高の関ゼミライフを。（加藤裕貴）